

【用語】町田村・下沼田村―沼田市 東入―片品川沿いの利根村・片品村地域 早駕籠―急用を報ずる駕籠 差懸り―さしせまり、急に、急いで 継立―宿ごとに人馬を替えて送ること 差紙―ここでは指令書 披見―文書などを開いてみること 検断―沼田城下の町政全般を担当した役人 助郷―宿人馬が不足した時、近隣村へ課した夫役 無扱―しかたなく

【解説】慶応四年（一八六八）閏四月、三国戦争が新政府軍の勝利で終わった。しかし、あくまでも関東進出を試みる会津藩は、檜枝岐村（福島県檜枝岐村）から尾瀬沼を抜けて戸倉村（利根郡片品村）を急襲し、警備する前橋藩などを一撃したあと村を焼き払って引き上げた。その後、戸倉周辺は小康状態を保っていた。八月十三日、新政府軍の東北地方への進軍に反対していた米沢藩の雲井龍雄は、会津への攻撃を中止させ、また前橋藩へ反政府蜂起をうながすため戸倉村に姿をあらわした。そして沼田に駐留する軍監柴山文平に会見を求めた。このため沼田から増援の部隊が、急ぎ派遣されることになった。

この文書は、沼田藩役人から町田・下沼田両村へあてた人足徴発の触書である。文中の「東入りへ出兵する諸藩の早駕籠が夜中も頻繁に往来しているので、継ぎ立てに差し支えている。急ぎ沼田町検断の所へ助郷人足を差し出せ」という表現は、当時の緊迫した状況をよく示している。なお柴山は、この機会を利用して雲井らを討ち取る計画を立てるが失敗した。この時、雲井に同行した前橋脱藩士の屋代由平らは戦死し、その墓は須賀川（片品村）にある。その後、雲井は会津若松城に向かうが、すでに大勢が決していたため米沢に帰っている。